

第113回デメンシアカンファレンスを開催

2025年9月30日

9月30日（火）に福井大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「113第回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「それは特定不能の認知症なのか？」のタイトルで、福井大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド

ミーティング情報

第113回デメンシアカンファレンス

ninpro
① 検証されていない

福井大学 さんの共有コンテンツを表示しています

100%

それは
特定不能の認知症
なのか？

藺田翔平、上野幹二、小坂浩隆
福井大学医学部精神医学

第 113 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『それは特定不能の認知症なのか？』

発表者：藺田翔平（福井大学神経科精神科）

司 会：上野幹二（福井大学神経科精神科）

【要 旨】

症例は 73 歳の女性。微小妄想を伴う抑うつ気分が出現し、昏迷となり当院へ入院した。抗うつ薬で改善せず、電気けいれん療法で抑うつ状態は改善した。しかしその後、1 人で解体した内容を話し続けたり、突然黙り込んだり、一点を見つめたまま同じ姿勢を保持したり、幻視幻聴の訴えがあったりとまとまらない言動が出現した。これらの症状が 2 ヶ月程持続した後、再び亜昏迷となった。精査を行ったが明らかな器質的異常が見つからなかった。脳炎、せん妄、DLB、AD、FTLD、特定不能の認知症、双極性障害など様々な鑑別疾患が挙げられたが、経過や症状はいずれの診断にも当てはまらない。そこで我々は経過中に緊張病のような症状を呈した点に注目した。当科の最終診断は遅発緊張病。遅発緊張病とは中年以降の女性に多く発症し、特徴的な経過を辿る精神疾患である。本症例はロラゼパムが著効し、病状が大きく改善した。

【質問・意見】

- ・パーキンソニズムなど神経学的所見は？→明らかな神経学的異常所見は認めなかった。
- ・副腎不全の鑑別はあげなかったか？→副腎不全の鑑別は想定していなかった。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第113回デメンシアカンファレンス(Web)

2025年9月30日(火) 18:30～

『それは特定不能の認知症なのか？』

発表者：福井大学医学部 精神医学 藺田翔平

担 当：福井大学

対 象：認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム (Webex) を使用

- ・ 教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りしますので、記載のURLより会議にご参加下さい
- ・ 教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します
- ・ 上記以外で参加を希望される方は 9月29日までに、氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号

TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208

E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL:<http://ninpro.jp/>